

算数科 小学校 5年

単元名 合同な図形
～三角形・四角形の角～

本時の流れ（第3時）

復習
前時の復習をする。

めあての把握
三角形の学習時に確かめた方法などを想起させることで、見通しを持って学習をすすめることができるようにする。

自力解決
自分なりの方法で内角の和を求め、それを言葉で説明できるようにする。

【発問】
なぜ、四角形の角の和が 360° とい
うことができるでしょう。

集団解決
色々な考え方を聞き、自分の求め方と他の人の考え方を比較する。

【発問】
四角形の和の求め方を発表してもらいま
しょう。

評価問題
四角形の内角の和が 360° ということを使っ
て、問題を解く。

学習のまとめ
学びの振り返り

【本時の目標】

○三角形の内角の和のきまりを適用し、
四角形の内角の和の求め方を考える。

【めあて】

四角形の4つの角の和が 360° になる
ことを確かめよう。

「活用」の力を育てる評価の工夫

本時は、この単元の3時間目である。本単
元では、「操作活動を通して、三角形や四角形
の角の大きさについて考えることができる。」
が目標の一つである。また、その発展、活用
形として多角形の内角の和を合理的に求める
力の育成を図ることも目標の一つに挙げてい
る。

四角形の内角の和を求めるためには、分度
器を用いたり、切って貼ったりという作業の
他に、対角線を引き、四角形の中に三角形を
二つ作るという論理的な方法も考えられる。
児童が自分の言葉で解決方法を表現できるよ
うに考える時間を十分確保し、それぞれの意
見を交流する中で、どの方法が一番素早く、
正確に内角の和を求めることができるのかを
学級全体で確認する時間を大切にする。他の
方法との違いを明確にすることで、これまで
の学習を活用することの良さに気付かせる。

何人かの考えを発表させ、どの方法が一
番早く、正確に求めることができるか学級
で検討する。

本時の学習でわかったこと、大切なこと
を書かせる。

授業展開例へ

評価問題

単元の流れへ

HOME